

小出地区まちぢから協議会 令和7年7月行政との情報交換会 議事録

1. 日時・場所 令和7年7月6日(日) 13時30分～15時45分
小出地区コミュニティセンター大会議室

2. 出席者

(市より) 佐藤市長、塩崎副市長、岸副市長、寺島くらし安心部長、吉川経済部長、深瀬都市部長、松岡教育推進部長、廣瀬市民自治推進課長、竹井市民自治推進課主幹、熊澤市民自治推進課員

(議員) 柳晴太郎県議会議員、木山耕治市議会議員

(小出まち協) 村越安芳、石井義雄、吉野久雄、齋藤賢一、小野寺元希、会見春雄、布川友義、鈴木裕、佐藤幸子、五十嵐清夫、毛利和夫、高木英明、宇尾野政徳、矢加部清、本間美枝子、川口ひとみ、佐藤浩一、杉山陽一(文責)

3. 資料

①配布資料: 20250706 令和7年度小出地区情報交換会配布資料
会議にて配布された資料です。

②R7-7月情報交換会回答書

R7年7月11日に市民自治推進課より入手した資料です。

4. 開会挨拶

(1) 小出地区まちぢから協議会会長開会挨拶

暑い中、市長をはじめとして行政の関係者においては、小出までご足労頂き感謝致します。本日のメインテーマではないですが、小出には、農業の将来、草茫々の耕作放棄地、市街化調整区域等いろいろな課題があり、何とかしたいと考えています。一方、小出は防災の面でも良い点がいくつかあると考えています。人口増加は希望するところであり、私の地域の空き家だったところに、最近若い3組の家族が移住してこられて喜ばしいことであるが、市街化調整区域の課題が阻害要因の一つであると思っています。今日はいろいろなテーマを用意しているので、闊達な意見交換をお願い致します。

(2) 茅ヶ崎市長挨拶

暑い夏が続いているので、皆様にはご自愛ください。今日は5つのテーマを頂いたが、最初の4つのテーマはいかに小出の賑わいを見せるかで大事なテーマであると思っており、このテーマを頂いて感謝しています。また、5つ目のテーマは防災に関する事で、今まさに鹿児島で起こっていることが茅ヶ崎海岸で発生したら大変なことだと考えています。県は今年度中に津波ハザードマップの改訂を行う予定であり、茅ヶ崎市もそれに従って見直しを行ないます。道の駅がいよいよ明日オープンします。道の駅では出荷した商品の引き取りは発生しないので、小出からも積極的に出荷したら如何でしょうか？ また、道の駅では、運営会社のファーマーズフォレストが、スマホを使用した商品直接配送システムを開発中であるので、商品流通の効率化が図られると思います。また、道の駅、あるいは茅ヶ崎 FM を通じて、下寺尾遺跡、小出七福神等の小出の宣伝をして行きたいのでぜひ皆様の協力をお願い致します。

5. 議長選出

村越まちぢから協議会会長が、議長として選出された。

6. 議事

(1) 下寺尾遺跡について

①（石井）遺跡公園の計画があるが、現状および具体的な内容を教えてください。

（松岡教育推進部長）平成29年3月に史跡下寺尾官衙遺跡群保存活用計画が策定され、史跡公園として整備する方針が示されております。その後、西方遺跡が新たに追加され重複遺跡となり、令和7年度から2年で2つの遺跡を一体化した新たな史跡保存活用計画を策定することになっています。その後、取得済史跡用地を暫定的に整備するために令和8年度から12年度を期間とする実施計画での事業実施に向けて庁内調整を行っております。一体化した史跡保存計画は現在検討中であるが、2つの遺跡の特徴を生かした展示を行う予定であり、AR/VR等の最新技術を用いた展示も考えております。

②（石井）国や、県への働きかけはどの様に行っていますか？

（松岡教育推進部長）国は文化庁が所管であり、基本的には県を通しての関係性であるが、保存活用計画の策定等に当たっては、直接の相談、アドバイスを受けています。実際、遺跡の現地確認もして頂いています。県に関しては、史跡の指定に関する事、補助金申請等、日常的に連絡調整を行っております。国、県の補助金を有効に活用しながら史跡の整備を進めていきます。

③（石井）最終形は10年先ということだと思うが、もっとスピード感を持って進められないでしょうか？ 要はもっと早く進められないでしょうか？

（松岡教育推進部長）2つの国指定の史跡という事でもあり大変貴重であると認識しており、市としても保存活用について、積極的に対応する所存です。ただ、北陵高の移転問題、および保存活用計画の一体化の問題があり、スピーディに進められないのが現状です。市としては、保存活用計画が確定してから整備を本格化するのが重要と考えております。

④（会見）遺跡公園のイメージはどんなものですか？ 大型バスが数多く来場出来る様な規模ですか？

（松岡教育推進部長）まずは史跡の保存活用計画を策定し、その後史跡整備計画により史跡公園の形を作ることになるので、まだ具体的なイメージは無いところです。

（会見）今後の計画策定に際して、是非地元との連携を密にして進めてください。

（松岡教育推進部長）史跡の保存活用に関しては、下寺尾遺跡群保存活用連絡会という会議体を組織して、遺跡に関わる組織との情報交換を行っており、小出まちぢから協議会のメンバーも参加しています。今後も地元との連携を密にして計画を進めていきます。

⑤（鈴木）史跡と民家が近接しており、史跡の中に民家がある様なところも見受けられ、史跡の範囲が分かりにくいです。

（松岡教育推進部長）史跡領域の公有地化を進めているが、確かに史跡の範囲内に民有地もあります。また、史跡の範囲が大きくて事業範囲が不明確という意見もあるので、次の実施計画の中で暫定的に纏まったところ、例えば下寺尾廃寺の整備を行って行くことを考えております。

⑥（宇尾野）何故計画が滞っているのか、保存活用計画策定の担当者が悩んでいるとの話を聞いてます。例えば、官衙と西方が重なっているの、どちらを主体として扱ったら良いかなど。これは方針が決まっていないからではないですか？ トップダウンで方針決定をしたら良いのではないかと考えてます。

(松岡教育推進部長) 一体化計画が進んでいないのは事実です。この重複した遺跡の活用については、前例がないので文化庁でも悩んでいるところです。いずれにしてもこの問題は解決を図る必要があると考えております。

⑦ (宇尾野) この史跡事業をモノでは無く、コトとして捉えて頂けないでしょうか？ コト化することにより、今からでも出来る事が多々あると思います。AR/VR もいまから着手して PR に使用すれば良いと思います。失敗したらまた作り直せば良いのではないのでしょうか？

(松岡教育推進部長) 人集めに関しては、史跡公園をどの様に実現化するのが大きな要素だと認識しているので、整備計画の策定においてしっかりとした対応をしたいと考えております。また、史跡現地の整備を待つのではなく、普及啓発という考えのもとで神奈川県歴史博物館との連携事業を通じて下寺尾遺跡 10 周年の紹介を行っていきます。

(2) 相州小出七福神巡り等イベントでの観光客呼び込みについて

① (石井) 七福神巡りを小出の観光の一つとして活性化したいと考えていますが、まち協の社会福祉部会だけの活動ではパワーが無いと思っています。財政面では、特定事業補助金を頂いているが、何か行政から別の観点からのサポート、支援を頂ける道はないのでしょうか？

(吉川経済部長) より多くの観光客を呼び込むことは、我々としても容易ではないと思っております。しかしながら様々なイベントを実施するにあたりましては、多くの人を呼び込むためには、そのイベントを知っていただき、さらに実際に来ていただけるよう、情報を発信していくことが我々としても重要であるというように考えております。各団体や地域の皆様がイベントや事業等を企画実施される際、市の方へ後援名義使用承認の申請を行っていただく場合がございます。イベントや事業等の内容が非営利であることなど、一定の基準を満たすものであれば、後援名義使用の承認を行っております。この後援名義使用の承認を受けていただいたイベントや事業等は、市としても広報紙とかホームページ、公共施設でのポスター掲示、チラシ配布、SNS 等による情報発信の支援を行っております。

取り組むイベントや事業等の趣旨や目的によりまして、申請する窓口は異なりますが、観光誘客や街のにぎわい創出、地域経済の活性化などを趣旨、目的としたものでしたら、経済部産業観光課が窓口となっております。こうした状況の中で、浄見寺地元祭りとか、相州小出七福神巡りについては、既に地元の皆様と連携を図らせていただいております。さらに観光協会とも連携協力を行われておりますので、この 2 事業については、集客の効果、事業の効果が上がっているというふうに感じております。また市としても、この事業に対しては市外への周知として、湘南地区の三市三町、藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、寒川町、大磯町、二宮町で組織している湘南地区観光振興協議会を通じた広域的な情報発信にも取り組んでおります。今後は先ほど市長の挨拶の中でもありましたが、明日 7 月 7 日月曜日にグランドオープンする、道の駅湘南ちがさきでの案内・周知、さらに広域的な部分で神奈川県観光協会などとも連携を図り、より広いエリアを意識した情報発信にも取り組んでまいりたいと考えております。

② (五十嵐) 小出の観光を活性化するために、里山公園、下寺尾遺跡、博物館、浄見寺、清水谷、市民の森などを複合的に組み合わせた観光というものが考えられると思うが、市の構想を伺わせてください。

(吉川経済部長) 小出にはいろいろな観光資源があると思っております。それを如何に外に向かって情報発信を行って行くかがカギと考えています。一つ考えているのは、道の駅にて小出の観光資源の情報発信を行うことです。今後小出の観光のコンテンツマップを作り、道の駅に来られた方達に茅ヶ崎市内を回遊して頂くことも良いのではないかと考えています。そのため地域の皆様にはいろいろと協力を仰ぎたいと思っております。

(3) 小出のみどりについて

①（石井）行政からは、みどり豊かな街小出というキャッチフレーズが発信されてますが、どうもじっくり来ません。この、“みどり”とはどういう意味なのかお聞き致します。

（深瀬都市部長）小出のみどりに関しては、茅ヶ崎市みどりの基本計画生物多様性ちがさき戦略の中で、小出地区のあるエリアを北部丘陵地として、特別緑地保全地区や緑の保全地区の指定を推進し、市民と共同で保全管理を行い、里山などの自然環境を保全する方針としております。また、自然環境評価調査からも、多様な生き物の生息地であることが確認され、特に重要度の高い地域として、柳谷、清水谷、行谷では、土地所有者や管理者、保全活動団体の皆様の協力のもと、保全活動に取り組んでおります。具体的な取り組みとしては、森林環境譲与税を用いて、柳谷、清水谷、行谷等で、危険木や支障木の伐採を行い、緑の質の向上に努めているところです。

②（石井）みどりの基本計画の基本方針、基本計画の中で、自然が豊かな茅ヶ崎の農地、河川、海岸、公園などを一体化して保全して再生するとありますが、小出にとって具体的な計画の内容を教えてください。

（深瀬都市部長）今申しましたように、特別緑地保全地区とかを重点的に取り組みつつ、また今お話にあった農地につきましては、農地を残していけるよう、地域の農業者などと農業の将来について話し合った内容をもとに、目指すべき将来を明確にした地域計画を令和 7 年 3 月に策定しております。経営拡大を希望する農業者や新規就農者等への農地が集積集約できるよう、取り組んでいきたいと考えております。

③（石井）いずれにしても、自然を放っておくと荒地になってしまいます。全てが市有地ではないので、民有地のみどりもあります。その民有地のみどりが雑草が生い茂っている状態もあろうかと思えます。そのような所有者に対してみどりを適切に保全するよう、行政的指導も必要ではないかと考えてます。

（深瀬都市部長）清水谷特別緑地保全地区などは、実際に民有地です。そこに関しては、小出地区の中でも重要な緑として位置づけて、しっかり守っていくという信念のもとで、実際に管理をしております。でも民有地となると、いつまで残るのかわからないところがあるので、買収の方も進めております。そして最終的には、清水谷全体を茅ヶ崎市の市有地としてしっかりその緑を残す管理をしていきたいと考えております。

④（石井）話がちょっとかみあっていないと思います。農地活用等を含めて緑のゆたかな自然環境を大切にしていかなければならないと思っています。清水谷等の件はその次の話です。みどりには色々なものがあって、先ほど言ったように、雑草まで含んだみどりという言葉で現れていると思いますが、雑草を含んだみどりに対して具体的に一步踏み込んだ形で、特に民有地に対して指導的なものが無いでしょうか？

（深瀬都市部長）農地につきましては、やはり緑として位置づけておりますので、しっかりと農地を残していけるように、先ほど申しました地域計画を令和 7 年 3 月に策定し、経営拡大を希望する農業者、新規就農者等へ農地が集約できるよう、取り組んでいるところです。また他の民有地等々に対しては、例えば河川敷の緑とかは下水道河川部の方で草刈りを含んだ管理をしっかり行っていきます。

⑤（石井）関連の質問として、先ほど出てきた清水谷は特別緑地保全地区という形になっています。このような地域は市内にも何か所かあるかと思いますが、自然環境の学校関係者が、または学校の教育の一環として、学生がこういう施設巡り等を行なっていますか？

（深瀬都市部長）教育との連携については、実際毎年、鶴が台中学の方をお招きして、実際に市民団体の方が講師になって、緑や生物多様性に関して理解を深めており、それと日本大学が教育の一環として、実際にそこでアメリカザリガニの駆除を市と一緒にやっています。そういった中で生物多様性に関して理解を深めたり、あとはモリアオガエルの卵の遺伝子の分析調査を実施したりとか、それが国内の中での外来種といったところを見たり

とか、実際そういったことを教育の連携として進めております。

⑥（石井）確認ですが、今一部の学校ではそういうところを教育の一環として行っています。市内の小中学校において、小出の谷戸を教育の一環として捉えるという動きはありますか？

（深瀬都市部長）清水谷に関しては、鶴ヶ台中学と日本大学ということですが、私としては市民の皆様、および子供たちに他の保全地域のことを知ってもらうことは重要だと思います。それについては、今後教育委員会に、今日のお話があったということをしかりと伝えて参ります。

⑦（石井）教育推進部の部長さんにお伺いしますが、教育の一環としての必要性があると思っております。

（松岡教育推進部長）学校教育につきましては、教育委員会の中の2つの部の内、教育総務部の方に、学校教育の専門部局があるので、詳細は、私の方では不明です。従って本日質問を頂きましたので、持ち帰りまして、教育委員会の中で情報を共有させて頂きます。

（4）資材置き場の現状と対応について

①（小野寺）地域活動部会の小野寺です。私は、高校に入るまでは小出で育ちました。最近、小出にかなり資材置き場が、増えたという印象を持っています。その資材置き場ですが、結構歩道ぎりぎりのところまで高いフェンスで囲われているので、出会い頭の事故というのが、容易に起きるのではないかと危惧しています。資材置き場は個人財産なので、何かの規制をするのは困難だろうとは思いますが、フェンスの高さを規制するとか、何らかの行政指導をすることは出来ないでしょうか？また、鉄板で囲われて、中が全く見えない状況で、中でなにをしているのかわからないところもあります。小学校も近くにあり、治安面での不安もあります。この状況に関して、行政の現状認識と対応について質問します。

（議長）補足しますが、6月の市議会で、藤本議員が同様の質問をされておりました。その質議応答の概要を資料提供いただきましたので、本日の資料に入れております。参考としてご覧ください。

（深瀬都市部長）資材置き場のフェンスにつきましては、法律や条例の規制がないといったところがあります。所有者の判断で設置されているケースが殆どです。ただ、安全面の観点から、高さの抑制や角の部分の可視化等については、所有者の財産を踏まえつつ、明らかに危険と思われるような箇所については、土地所有者と事業者へ、助言と協力をお願いを行っているところです。また、資材置き場については、慎重な検討が必要ですが、藤本議員の質問にもあった川口市にてそういう条例が作られたという実績があります。それに関しては、作った理由があるんですね。立法事実というものが、当然、立法事実ってどういうものなのかといったときに、茅ヶ崎市内の状況をまずよく知っておかないと、簡単にそこに規制をかけるというのは難しいということなんですね。個人の財産なので。なので、茅ヶ崎市内の状況を知ることが、まず第一だと思っております。今回、一般質問の回答でもあるのですが、まずは市の職員で実際に実態調査を行ってみようということで話し合いをしております。実際、話し合いの中では、開発審査課、景観みどり課、環境保全課、都市計画課の4課のほうで、どうやって調査をしていこうかと、その方向性を検討しているところです。その調査後にその後の対策の方向性を考えて行きます。

②（小野寺）是非、現状調査をして頂きたいと思っております。小出にはみどりがあり、博物館があり、美しい富士山も見えるが、博物館の前には資材置き場、富士山の景観の前にも資材置き場という状況があります。観光を打ち出すときに資材置き場がネックになるのではないかと思います。資材置き場にならない様に、市民の活動団体向けとか、市としてプラスに働く様な用途に限定した市街化調整区域の使用法を制定するような考えはないでしょうか？

(深瀬都市部長) やはり市街化調整区域ということで、どうしても都市計画法という法律に縛られてしまいます。それを超えて何かできるかという、なかなか難しいところがあります。ただ、言われたように、民有地だが特別緑地保全地区にして守っていくことは市としてできると思っているので、そういったところをしっかりと進めていければと思っています。

③(会見) 環境保全部会の会見です。資材置き場に加えて、産業廃棄物の中間処理場が小出に散見されてます。私がこの問題を認識したのは、令和3年度の小出問題検討会、その中で小出地区の皆さんがグループ会議をして、いろんな問題を出しました。悪いところとして小出地区には資材置き場とか産業廃棄物処理場があって、朝早くから夜遅くまでガンガン音を立てて、振動と悪い雰囲気地域の人たちが大変迷惑してるよ。なぜこういうふうになってんだろうという話からですね。それは、農業をやっている方が、もう高齢になって後継者がいない、土地はいっぱい持っている、でも相続税が払えない、だから土地を切り売りする。その土地を資材置き場とか、産業廃棄物処理場とかにする。この産業廃棄物も絡めて、私たちも環境保全部会として、ゴミの不法投棄をいかになくすかという活動をしていますけど、実はその活動の中から、2023年の市民集会で、私どもは質問状を出しています。これは、芹沢久組内にある、私たちは産業廃棄物の処理場だと理解していたんですけども、鉄板の壁に囲われて、その鉄板が外れそうになっていると、その自治会長が、平成23年の9月18日に小出市民集会で、この産業廃棄物処理場(の事業主¹)は既に消えたということで、問題提起しているんですね。それからずっと毎年質問したりしてきているんですけども、市の方からの回答は、業者といろいろ連携を取って対象職員に連携をとっています、月1回やっています、みたいな回答にずっと終始して、現在に至っています。もう13年経ってます。それで、私たちが不法投棄防止の活動をしている中で、その久組の産業廃棄物処理場のところで、不法投棄が散発したんですよ。やはりゴミがゴミを呼ぶってことです。市の環境事業センターと連携して対応しましたが、やはりこういう施設を無くさないと、ゴミの不法投棄は無くならない、ということから、2023年の市民集会で私どもも質問させていただきました。ここでちょっとお伺いしたいんですけども、資材置き場とか産業廃棄物中間施設というのは、その施設をそこでやっていいという許可を出すのは、市ですか？ 県ですか？

(市) 産廃は県です。民有地の資材置き場としての使用は、基本的に許可は不要です。

(会見) 民有地の所有者が資材置き場として使っているのは、市は関知しないということなんですね。そうですか。それはそれでいいですが、産廃処理場の場合は県が許可して、そこがきちんと産廃処理場として運営されているのか監視するのは、市はどこの部署で監視するのですか？

(市) 監視も県です。

(会見) それも県なんですか？ 市は全く関知しないと。まあいいです。それで、私たちが気になったので、7月1日に平塚県総合センターの方へ行きて、県の工藤課長、および4名の方と、1時間半くらい話をしてきました。県の方でも産廃処理場は私の方で管理していますと。ちゃんと運営できているかも見てますと言われてましたが、こういう状態が続いていたので、私たちが何回か連携をさせていただいて、実はこの久組の場所は、5月から急に撤去が始まってだいぶ進みました。まだ完全じゃないですけどね。これが完全に撤去されるまで、これからまた県と連携を取ってやっていきます。確認ですが、市としては産業廃棄物処理場の管理はノータッチですか？

(市) 今日、環境部長が不在なので詳細不明ですが、当然、県の方と連携をしながらやっていると思っています。

(会見) 県では市と連携を取ってやってますと言っていました。ですから、まるっきり無関係では無いと思います。今の産業廃棄物処理場問題も、きちんと最後まで整備できるように市でもきちんと管理させていただいて、県と連

¹ 後日発言者に確認して追加

携を取って、最後まできちんと見届けて頂きたい。宜しくお願いします。

(市) 担当の三浦環境部長に申し伝えます。

(5) 小出地区の防災拠点について

① (齋藤) 小出地区には防災対策の拠点として、小出小学校、北陽中学校があります。防災関係者で話題になっているのは、大きな地震、津波が発生した場合、海岸地区から小出の方に避難者が何百人、何千人、それ以上になるかもしれないという想定です。それに対して小出地区の現在の避難所の体制で十分なのか、併せて実際に避難民が来た時のコントロール、受け入れ態勢について、行政ではどの様に考えているのか教えてください。

(寺島くらし安心部長) 小出地区では、小出小学校、北陽中学校が指定避難所であり、被災者が一定の期間避難生活を送るための施設です。次に、小出支所、茅ヶ崎北陵高等学校、文教大学の3カ所が2次避難所であり、これも被災者が一定の期間避難生活を送るための施設であるが、基本的には市の施設ではないので、小中学校の指定避難所のキャパを越えたときに、市から開設を要請して、承諾後に避難所として開設します。続いて、広域避難場所は、大規模な火災が発生したときに、輻射熱や煙などの危険から、緊急的に人を守るため避難する場所であり、小出地区内の広域避難場所は、湘南カントリークラブゴルフ場、県立茅ヶ崎北陵高校、県立茅ヶ崎里山公園のエリアがあります。市として避難してきた人に対して、誰がハンドリングをするのか、体制作りについての質問ですが、避難所の開設と運営全般について、本市では、平成7年に配備職員を任命するということ始めていて、この平成7年1月17日の阪神淡路大震災を受けて、避難所の在り方を検討しているなかでのごこと記憶しています。現在、職員225名を任命していて、毎年、6月と7月に自主防災組織の関係者の皆様とか、防災リーダー、民生委員、学校教職員、そして配備職員などの顔合わせを行っていて、これは相互の理解、情報交換を目的に避難所打ち合わせ会を開催しています。避難所の運営が円滑かつ統一的に行われるよう、あらかじめ避難所運営マニュアルを作成していく必要があるという考えのもと、この避難所運営マニュアルは、東日本大震災で本市の職員が被災地の避難所で活動した経験をもとに、市内32の公立小中学校で避難所運営マニュアルを作成しました。この避難所運営マニュアルの特徴は、学校ごとに作成されていて、地域の皆さんと一緒に考えて作成しているというのが一つの特徴で、避難所打ち合わせ会とか、配備職員による学校施設の確認などで、内容修正を毎年行います。配備職員は避難所打ち合わせ会とか、地区の防災訓練にも積極的に携わっていくようにしており、庁内の研修もしっかりと受け取らえるようにしているが、大規模災害時においては、配備職員だけの対応にも限界があるというふうに思っているので、皆様の力、他県からの応援職員、施設の管理者、または避難している方たちにもご協力をいただいて、避難所の運営委員会みたいなものを立ち上げながら、避難所を運用して行きたいと考えています。

② (齋藤) 現状の施設を最大限有効活用して、災難に対して有効に動くということで了解しました。小出地区の総合防災訓練は、本年度は11月9日曜日だが、北陽中学校を舞台にして実施して行く予定なので、今後内容について、相談、アドバイスをよろしく願います。また先ほどの説明で、広域避難場所ということで、里山公園が紹介されたが、里山公園は県の施設なので、広域避難が実施された場合の県との取り決め、連絡体制はどうなっているのか教えてください。

(寺島くらし安心部長) 里山公園については、大規模火災発生時の避難所として県立茅ヶ崎里山公園での避難者受入に関する協定書を平成31年2月7日に締結しているが、地震、風水害や、そのほか各地災害時の避難者の受入に関する項目も協定に入っており、避難場所としてパークセンター、広場、駐車場等を活用できるという協定になっています。昨年台風10号の際には車両での避難、避難場所として駐車場を予め開放して欲しいという依頼をして承認されました。

③ (齋藤) 将来的には県とコラボして小出地区の防災訓練を里山公園でやるということも検討しているので、

相談、アドバイスをお願い致します。

(寺島くらし安心部長)

ぜひいろんな形でご意見いただいて、防災対策課としても訓練、準備から手伝わせていただきたいし、また一緒になって考えていきたいと思います。

④(石井) 高齢化が進んで行く中で、学生をボランティアとして活動して貰える仕組みが出来れば良いと考えていますが？ 学生の教育という観点からも有効ではないでしょうか？

(寺島くらし安心部長)

小中学校において防災教育に力を入れてほしいと思っており、小学校や中学校に防災対策課で作った教材などを渡して、学校の教科の時間の中で防災教育をして頂きたいと考えています。また地域のそういう訓練にも、ぜひご参加して貰って地域の皆さんの活動をしっかりと見てもらうことが大事だと思うし、うまく子どもたちが参加できるような訓練などもぜひやっていきたいと思っています。

⑤(村越) コミセンが避難場所に指定されていないのはどういう理由なのでしょう？ それなりのスタッフが揃っている施設を利用しない手は無いと思いますが？ また、老朽化した皆楽荘の建て替えを検討して頂きたいと思っていますし、コミセン、皆楽荘、小出支所を合体させる事も考えられるのではないのでしょうか？ 是非真剣に考えて頂きたいと思います。

(6) その他質問、意見

(鈴木) 5点質問、及び意見をさせていただきます。

①道路からはみ出した木々は勝手には伐採出来ないと思うが、良い対策は無いのでしょうか？

②雑草が生い茂った農地に対して、地権者に正常な管理を促す方法は無いのでしょうか？

③ひかりが丘地区の前の道路は私有地です。ここの道路は修理しないでください。何故ならば、この道路が整備されると大型トラックが高速で走行する事になり、非常に危険であるからです。

④下寺尾の北陽中学校に近接した道路状態が悪く補修が必要であるが、土地境界が曖昧で、道路管理課でも手が出せないと聞いています。何とかして頂きたい。

⑤市長より実施を提案されている小出クリーンキャンペーンのことで、まち協の環境保全部会にて色々検討してはいるがなかなか良い案が出て来ません。七福神巡りとコラボして実施するとか案があるので、何とか実施する方向で検討して行きたいと思っています。

(議長) 鈴木さんの質問は突然でもあったので、今日回答できない分については、今後の市民集会にでも、所管の部長より回答して頂ければ良いと思います。

(川口) 小出で育ったものとして、小出について語らせてください。小出は自然、みどり豊富で子育てにも適していると思います。私の実家であった野球ボール工場の跡地を茅ヶ崎のノーザンビレッジと称して、若い世代が音楽フェスをやったり、竹林生育をしたり、マーケティングスペースを作って活動する形で動き始めています。下寺尾遺跡もあり、古代から住みやすかったところとして茅ヶ崎は神奈川を越える観光地にもなるのではないかと思いますので、ぜひ皆さんに知っていただけたらと思っています。

(塩崎副市長) 鈴木さんの質問に何点かお答え致します。

①個人の越境樹木を条例で切れないかという件、小出だけではなくて市街地でも出てきているが、法律的な適用には困難さが伴います。裁判事例でも切った人が賠償責任を負うという事が発生しています。ただ、社会的な問題になっているので、情報を集め、何が出来るか考えることは出来るかと思いますので、少し時間をください。

②畑を雑種地にする話だが、税金的に、かなり前に私が調査した結果であるが、畑の場合平米1円、それを雑

種地にすると平米150円ほどになります。いずれにしても、現況主義のもとで地権者と話し合っていかなければいけないと思っています。

③ひかりが丘の私有地案件は、後日担当を伺わせてヒアリング致します。

(鈴木) ひかりが丘芹沢スポーツ広場前の私有地道路に関しては、事情を道路管理課から聞いているので、市庁内で情報共有して頂ければ良いです。

(塩崎副市長) 了解しました。

④ 北陽中学校の境界の問題は、立ち会いをしたけど相手が納得しないとか、いろんなケースがあると思うので、過去の経過を調べて結果を後日報告致します。 場合によっては、現況のまま処置を行う事を検討します。

7. まとめ

(佐藤市長) 長時間にわたり、貴重なご意見を頂きました。5つの課題について個別にコメント致します。

①下寺尾の整備計画について、市長が率先して方向性を出せという話ですが、専門家がよくわかっていないのに、私が勝手に作って実はそうじゃなかった、となると税金の無駄遣いになってしまうので、それはやらない方が良いと思っています。それより、早くAR/DR/VRの技術を使って、仮想空間の中でイメージを示す様なやり方が良いのではないかと思います。また小出の地域だけではなく、茅ヶ崎市全体を共有できるようにするのが良いと思います。それで、この整備計画を作る前に、まだまだすべきことがあるのではないかと、できることがあるのではないかと、と思っています。例えば、大岡越前祭のパレードに参加して考えたことは、名刺のQRコードにより、今、小出の地域でこういった活動をしているので、みなさんも参加していただければ、という投げかけをするようなことが出来るのではないかと、と思っています。また、小出だけではなく、茅ヶ崎市全体を茅ヶ崎FM、道の駅などを使っていただいて情報発信、アピールをして頂ければ良いと思っています。

②小出の七福神巡りもまだまだ7年目で、これからだと思っています。スマホスタンプラリーという新しい御朱印を作っていただいて、全部集めるとキッチンカーでサービス受け取りが出来るとか、そういったことで、もっと広がりが出てくるかなと思っています。

③小出のみどりですが、みどりを守っていくためには、やはり人手が加わらなければ守れないと思っています。市内の造園協会から、今、若手の技術の育成をする場所がないというような相談を受けていて、じゃあ小出で出来るのではないかと検討しています。森林環境譲与税を使って、若手の造園屋、植木屋の育成などに結びつけられれば良いのではないかと、と思っています。

④資材置き場の件ですが、個人の財産に対する規制はなかなか難しいと思います。土地所有者と使用する事業者との信頼関係の構築から良い方向を見いだせるのではないかと、と思っています。産業廃棄物の処理場問題の件、昔は産廃協会と言われていたが、今は産業資源循環協会という名前に変わって、ずいぶん意識は変わって来ています。でも、中にはその協会に入っていない事業者が、何かいたずらをしているのかも知れないので、そういう事業者が分かったら県から名前を公表して貰って、そこには公共事業は落とさないというような処置をしないとダメじゃないかとも、と思っています。そのような場所があったら、ぜひ市に報告して貰えれば、県と協力しながらパトロールをしっかりやっていきたいと思っています。

⑤防災拠点の話だが、実際に災害発生した場合は、防災リーダーも、配備職員も被災者であり、でもまずは行動しなければなりません。そういう意識を持って行動しないと、常々職員には啓発しています。避難訓練を中学校でやられるということなので、ぜひ中学生も巻き込んで避難訓練をやって頂きたいと思っています。副市長とも話をしていますが、小学校中学校の授業参観時に避難訓練をしたら良いのではないかと。保護者を巻きこんで訓練が出来る訳なので良いかも知れません。

皆楽荘ですが、やはりファシリティマネジメントという観点で、考えていかなければならないと思っています。一つ一つではなく、二つ三つを集約してマネジメントすることを考えていかなければいけないことだと思っています。おっしゃる様に、コミセン、皆楽荘、小出支所を三位一体として考えていかないといけないと考えています。

⑥クリーンキャンペーンはぜひやっていただきたいと思っています。まずは、一歩踏み出すことが大事と、海岸のキャンペーンのときには、皆さんが行かれるので、今度は小出に来て頂くようにすると良いと思います。小

出地区に移住して来る若い人たちも増えて来ているので、そうした方々を巻き込んだり、小学校、中学校を巻き込んだりして、ぜひ実施して頂きたいと思っています。

8. 閉会挨拶

（石井まち協副会長）本日は、市長、副市長、各部長、まち協委員の参加を頂いて感謝しています。ただ、全体の盛り上がりはすこし欠けていたのではないかと感じています。せっかく行政の方がこれだけ来ている中なので、もっと小出の方々にこの場に参加して貰って、活発な意見交換をした方が良いと思っています。この後、市民集会が予定されているので、その時に活発な意見交換が出来るようにしたいと考えています。いずれにしても、今後小出を良くするために頑張るので、ぜひとも行政の方々の協力をお願いしたいと思っています。

以上